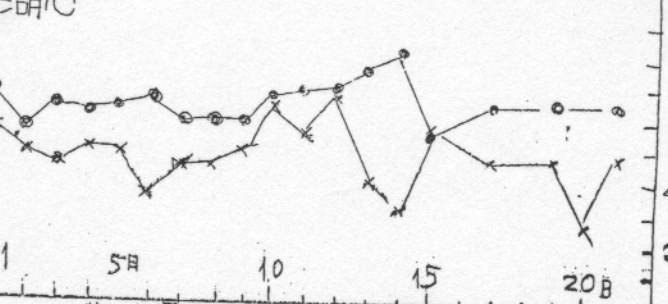
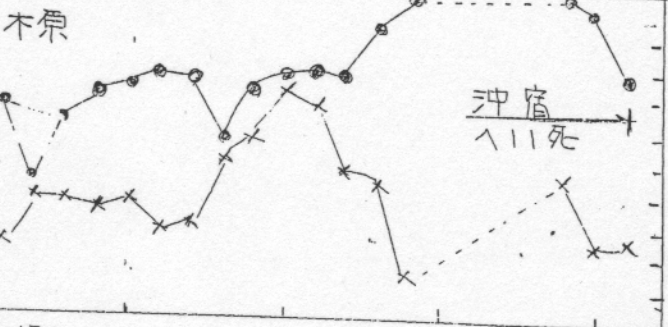
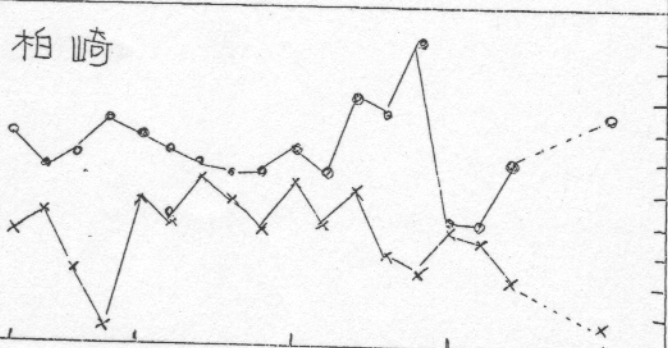
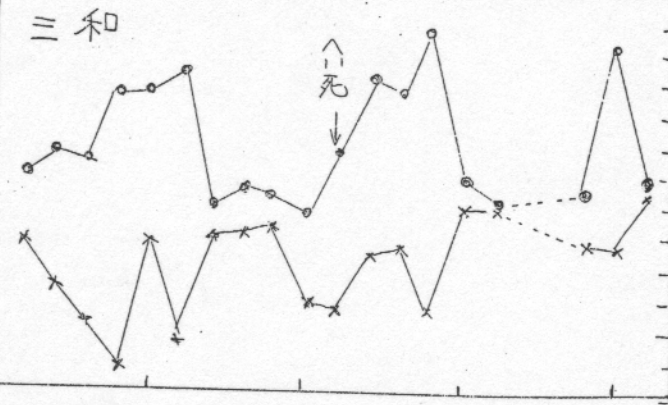


# かづら版 14

## 8月の 酸素量

数回の危険と最小限の被害でよく切りぬけて来ました。が、酸素量の変動をみますと、殆んど常に上下の差が大きくなり、酸欠の養殖経営におよぼす影響は無視できません。上の差は湖心でも認められますが、著しいのは、木原、柏崎、三和で地形からみて風による上下混合が、あまりに低い地点のためです。

ついでに、木原では8月10日以後に上下の差が著しくなっています。今年 は透明度は40cm以下に下がることはありませぬ。反が、枯れたアオコの集積は、牛波、木原、沖宿で著しく無風状態の20日には、木原の境



にあたる水、或に帯状にアオコが死が心配される時期に入りまし集積しているのが見られました。また、アオコが枯れて、プ昨年 のへい死は、8月下旬コンクトンの種類が変化す、今年 は、8月14日に非常に高旬から9月上旬にかけて、湖岸に吹きよせられアオコの死も大きい「木変り」の起るのかりが、風によって再び湖上に引寄せられる形でおこっている充分注意しなければなりません。今年も、このようにい

18日14日の水温	
上	下
田余 33.0	30.5
柏崎 33.5	29.0
湖心 31.5	28.5
手宿沖 35.0	29.5
味生 31.0	29.0
白舟 31.0	28.1

高水温を現、おでに水温は、ごがり気味です。が、今年 は、8月14日に非常に高